

# 基本構想の概要

## I 基本的な考え方

### 1 県民総参加の国民文化祭をめざして

- ・本県の有する個性ある文化や豊かな自然などあらゆる財産を最大限活用し発信する
- ・県内外からの参加者、観覧者全員が主役となり、薫り高い文化の風の中であそびながら、山梨のきらめきを五感いっぱい味わうことのできる祭典をつくりあげていく

### 2 基本方針

- ・『文化の風とあそぶ』
  - みつめる 「暮らしの中の文化」を再発見し磨きをかけ活用することによって創出した「山梨らしさ」の魅力を全国に発信していく
  - こえる 既存の枠組みをこえて、誰もが自由に参加できるような仕組みを取り入れ、新たな文化を創造する契機とする
  - つなげる 参加者全員が主人公となり芸術・伝統文化を次代につなげながら交流の輪を広げ、ふるさとづくりへとつなげていく

## II 名称、テーマ、会期等

- ・名称 「国民文化祭・やまなし2013」
- ・テーマ 「文化の風とあそぶ ～ みつめる・こえる・つなげる」
- ・会期 平成25年1月12日(土)～11月10日(日) 11ヶ月間  
※10月26日(土)～11月10日(日)を「グランドステージ」と位置づけ、総合フェスティバルを開催
- ・愛称等 大会の愛称、マスコットキャラクター、テーマソングを活用

県内外からの参加者・観覧者に山梨の文化資源や豊かな自然環境に直接触れ体験していただくことにより、四季折々の山梨の魅力を満喫していただくため、会期を11ヶ月に設定し年間を通じて開催します

## III 事業構想

### 1 主催事業の実施にあたって

- ・四季ごとに季節のステージを設けメリハリを与えながら、秋のグランドステージに向けて下記の事業を展開するとともに、奉仕やおもてなしの心を持ち、環境へ配慮した「人と環境にやさしい国民文化祭」の視点も取り入れる
- ・みつめる事業 地域の風土や山梨のオリジン、伝統芸能や祭りをみつめなおし県内外に発信する事業
- ・こえる事業 新たな分野の事業、ITやユニバーサルデザインを活用して既存の枠組みや時空をこえる事業
- ・つなげる事業 これまでの文化を継承発展する事業、海外との文化交流事業、人と人、地域と地域をつなげる事業

### 2 主催事業の実施分野及び実施数

- (1)総合フェスティバル 「グランドステージ」の開会式・オープニングフェスティバル、閉会式・グランドフィナーレの2事業
- (2)シンポジウム 「甲斐の国に見る戦国文化」をテーマにしたものなど計4事業(各季節のステージごとに開催)
- (3)分野別フェスティバル
  - <継続事業> 「吹奏楽の祭典」「合唱の祭典」など計10事業
  - <独自事業> 「富士山に関する事業」「ワイン王国やまなしに関する事業」など計48事業

### 3 主催事業の構想と特色

市町村からの事業アイデアを参考にしながら、本県の文化資源や自然を満喫できる事業、これまで培われた文化を継承発展する事業など、現時点で想定できる事業について、「みつめる」「こえる」「つなげる」の視点で分類しその構想と特色を記載している

### 4 協賛事業

- ・国民文化祭の趣旨に賛同して全国の自治体、文化団体等が行う事業について、文化庁が「協賛事業」として承認する
- ・実施期間 平成25年1月1日(火)～11月30日(土) 11ヶ月間

## IV 広報計画

- ・関係団体との連携を密にして支援を行いながら、きめ細やかかつ計画的に展開するとともに、愛称、マスコットキャラクター、テーマソングなどを積極的に活用し、親しみやすい広報活動を行う
- ・平成25年1月からの「冬のステージ」の開催に向け、前年度からプレ事業等の開催を通じて気運を醸成していく
- ・各種広告媒体の活用、観光キャンペーン等との連携、既存の祭り・イベントを活用した広報活動を行う
- ・1月の開幕後は、県内で繰り上げられる各種事業を通じて、国民文化祭の開催を県内外に広く発信し雰囲気盛り上げていく

## V 運営計画

- ・山梨県国民文化祭実行委員会が運営主体となり、文化庁、全国の地方自治体、県内外の芸術文化団体、教育機関、企業、NPO・ボランティア団体との連携を図りながら積極的な参画を求め、企画段階から事業実施に至るまで県民が主役となる県民総参加の体制づくりをめざす
- ・各地域の個性ある祭典・イベントを見つめなおし活用することによって、それを国民文化祭の事業へと発展させ、そこに結集した県民の力を活用し、地域の文化力の向上と活性化へとつなげていく
- ・平成25年1月の「冬のステージ」の開幕に向け、先催県の国民文化祭の開催計画よりも前倒しで準備を進める